



地域見守り協力事業に協力 いただける企業を募集します

高齢者や子どもなどが住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、配達や訪問などの仕事の範囲内で見守り活動を行っていただき、何らかの異変を察知した場合には連絡をいただくなどの協力が可能な企業を募集します。

協力可能な企業は申請書を提出し、協定書の締結により協力が開始されます。詳しくは問い合わせください。

▶募集期限… 2月28日(休)
☎社会福祉課 ☎52-2119

災害時要援護者名簿の 共有等に関する協定

高齢者や障がい者のうち自力で避難が困難と思われる人（災害時要援護者）に対して、日ごろからの地域の支援や見守り活動を通じて、災害時にも速やかな避難誘導や避難所での支援を行うために、対象者の名簿の登録を受け付け、協定を締結した町内会や関係機関などと情報を共有しています。

現在の登録者は527名。協定を締結している団体は、市内146カ所の町内会などのうち58団体（39.7%）です。

大災害発生直後には、行政機関の機能が麻痺することが考えられるため、要援護者の支援には地域住民の協力が必要不可欠です。市と町内会などが災害時要援護者の名簿を共有することで、災害時に迅速な対応ができるよう協定締結についてご協力をお願いします。

☎社会福祉課 ☎52-2119



台湾旅行での記念撮影



受賞の喜びを遠藤市長に報告

長寿は地域の宝

それでも参加してくれない人はたくさんいます。隣近所に迷惑はかけられないと、遠慮している高齢者にいかに参加してもらうかが課題。交通

手段がないので参加を諦める人もいるので、乗り合いなど足の確保の策も考えています。敬老会や忘年会には97歳の女性や92歳の男性も参加してくれるのですが、みんな負けじと参加してくれるようになります。はつらつとしたご長寿の姿を見ると、健康で元気に生きることの参考になります。長寿の人からは「楽しいから心も体も元気になる、ありがとう」と言っていたのであります。本当に地域の宝だと思います。

ふれあい地域を守る

一番重要なことは、こうやって人が集まり、ふれあいが生まれること。人と会う習

慣があれば、何かあったときに誰かが気づくし、守ってあげることが出来ます。すべてを行政に任せるのではなく、地域でも自分たちでできることは自分たちでやる。見守りもその一つだと思っています。地域のことを一番知っているのは地域住民。行政も市民センターを中心にいろいろな事業をやってくれてとてもありがたいです。しかし、住民が主体となっている、いきいき百歳体操やサロン、老人クラブの行事などが定期的に行われることが理想的。皆さんからご教授いただき、少しでも参加者が増えるように、今出ていきたいです。



堀内 潤さん
いわて生活協同組合
共同購入事業部
久慈センター
センター長

付き合いです。地域にふれ合う企業として、今後も、地域のお役に立てるように頑張ります。何かありましたら、配達スタッフに気軽にお声がけください。

地域 も活発化しています

平成29年度に全国老人クラブ連合会会長表彰（100万人会員増強運動特別賞）を受賞した「侍浜松寿会老人クラブ」や「侍浜町老人クラブ連合会」の会長を務める桑田和雄さんに老人クラブの活動について聞きました。

皆さんを楽しませるために

平成27年から、侍浜町老人クラブ連合会の会長を務めています。侍浜の人たちにどうやって楽しんでもらえるかを考えるのが大変です。今までどおりの行事をやっているだけでも、参加者は増えませんが、変化を付けることが必要です。

侍浜では「ワンコイン忘年会」「みちのく潮風トレイルウォーキング」「英会話教室」などを実施しています。侍浜町は教育旅行の受け入れを行っているのですが、海外の人が民泊することも多くあるので、英語を覚えない人が多いだろうと思いましたが。来年の受け入れでは少し効果があるのではと楽しみにしています。

高齢者も変化

老人クラブの会員はもちろん高齢者なのですが、みなさんのイメージするおじいさんやおばあさんではありません。若い人たちの間で時代が移り

きたと思っています。行きたいたいと思っています。陸防災復興プロジェクト、少し先のものだと、大阪万博もみんなで積み立てをして、行きたいと思っています。

桑田 和雄さん

（侍浜町 77歳）

侍浜老人クラブ連合会 会長
侍浜松寿会老人クラブ 会長



さらに大きな企画として、老人クラブで台湾旅行にも行ってきました。海外が初めての人もいて、さまざまな体験ができたのかなと思います。来年以降の行事も予定している、復興道路の見学会や三

変わっているように、高齢者の中でも時代は移り変わっていて、若者が使うパソコンやスマホも当たり前のようになっています。

戦争や郷土の歴史など知らない高齢者が増えていきます。地域のことを、今後の世代に伝えるためには、まず自分が学ばなければならなりません。そのために歴史を知るツアーを企画して、鱈ヶ沢町や石巻市にある侍浜地区などを訪問しました。どの行事も定員をオーバーしてしまい参加できない人が出るほどの大盛況。参加した人は楽しみながら、学んでくれています。

企業も見守りに協力

いわて生活協同組合では、共同購入の配達の際に、そのお宅の人の様子などを確認する見守りを行っています。基本的に1週間に1回はご自宅に伺うので、何か異変があれば、市に連絡することになっています。久慈では幸いにも、連絡をしたケースはないのですが、他の市町村では、連絡して無事にすんだケースがあるようです。

いわて生協では夕食の配達サービスも行っているのですが、そちらでは週5日配達するので、ご飯が受け取られず残っているなど、異変に気づきやすいです。

配達時の在宅状況を、離れて暮らすご家族へメールでお知らせする宅配メールサービスも無料で行っています。ぜひご利用ください。

配達スタッフも基本的に、同じ人が伺うようになっていきますし、変わるときもしっかりと引継ぎしています。毎週のようにご自宅に伺うので、みなさん話しかけてくれたりしますし、ご近所さんのような